

# 造粒砂で透水舗装

## 東浦町 庁舎前に雨水貯留施設

リサイクル材を使用し、工事は庁舎正面駐車場にて雨水流出抑制対策。東浦町は、雨水対策の一環として、庁舎前駐車場の一部にリサイクルガラス造粒砂を使用した舗装工事を実施し、駐車場に雨水の一時貯留を試験的に行う。リサイクル造粒砂は、総合廃棄物処理業のトイエイ(本社・東浦町、今津昭社長)が廃ガラス瓶を再商品化したものを利用。同製品の雨水対策への使用および公共工事に採用されるのは中部地区では初めてとなった。



一層目にリサイクル造粒砂を施工

雨水貯留施設を設置。透水性舗装工は路床より上、一層目にリサイクル造粒砂をフィルター層として厚さ5cm敷き、その後再生砕石、透水機能を持つアスファルト舗装で仕上げた。雨水貯留施設は路床より下を60cm掘削、リサイクルガラス造粒砂を約60立方メートル敷き詰めた(2カ所)。雨水はアスファルトを抜けリサイクル造粒砂に浸透、貯留。その後時間をかけて土中に浸透し、雨水が流れ込む河川や下水道の負荷を軽減する。今回使用されたリサイクル造粒砂は、廃棄処分されていた色付きガラス(緑色・青色・赤色等)を再生したもので、町内での廃ガラスの資源循環にもつながる。また、自然砂の採取抑制により環境にも配慮している。同町では今後、今回の結果を見ながら下水道の埋め戻し工事などにも使用し雨水対策への利用も進めたい考えだ。